

第6 将来的な津波対策（問7 複数回答あり）

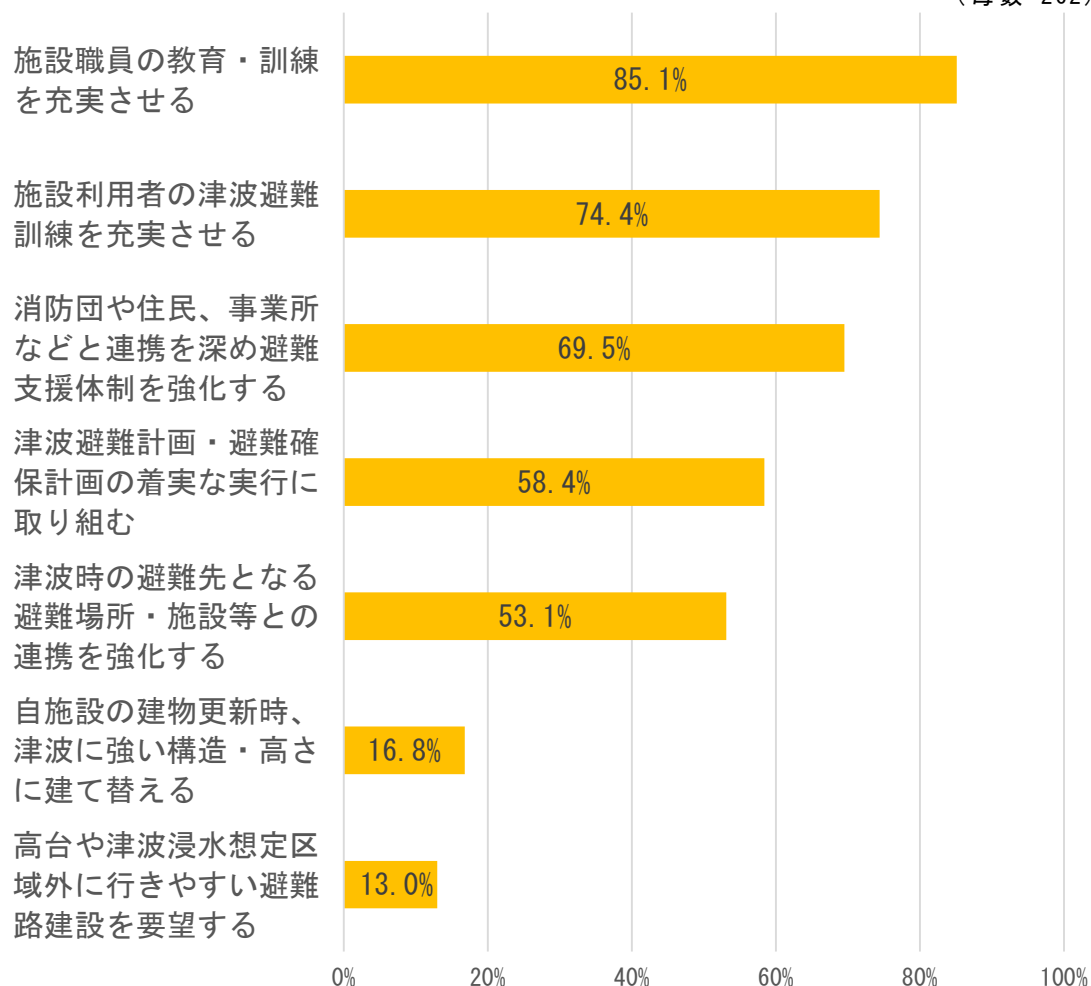
長期にわたる津波への対策として、貴施設では今後十数年から数十年にかけてどのような取組が考えられますか。現時点でのお考えをお聞かせください。なお、具体的な計画がなくとも、構想や希望で選択肢を選ばれても構いません（当てはまるもの全てに○）。

施設における長期的な津波対策をみると、施設職員の教育・訓練の充実が8割を超えて最も多く、次いで施設利用者の訓練の充実、消防団や住民などとの連携、と続いており、津波避難ビルや避難タワーの建設などハード面の対策よりも、教育や訓練の充実といったソフト面の対策を重視している傾向である。

図表VI-①

将来的な津波対策

(母数=262)



(注) 母数は、本調査に回答のあった施設270から本問に無回答の8を除いた262である。

また、施設が選択した対策全14項目中上位7項目を抽出した。

【行政への意見・要望⑥】 将来の津波対策への助言を得たいとの意見・要望

当局が実地に調査した 21 施設の中には、将来の移転や建て替えについて検討するため、県・市町村から助言を得たいとする意見・要望がみられた。

図表 VI-② 将来の津波対策への助言を得たいとの意見・要望

施設名	概要
施設 A (乳幼児関連施設)	津波浸水想定区域内にある施設は建て替え時期が到来していることから、移転も含め検討するため市町村に安全性について助言を求めたが、明確な助言が得られない。
施設 B (高齢者関連施設)	津波発生時に施設利用者を安全・迅速に避難させるには訓練だけでは難しく、地域の支援確保も困難であることから、長期的には、市の方針も重視しながら、津波に強い構造・高さの建物への移転も検討することが必要。